

## おわりに

今回、本書を執筆するにあたって、これまで出会ってきた多くの子どもたちや大人の皆さんとのやりとりを思い返しました。子どもにこんな言葉をかけたら、こんな表情をした。こんな言葉が返ってきた。こんな行動をとった。その一つひとつを思い起こす過程を経て、この一冊が出来上がりました。

私は、教育者でも研究者でもありません。強いて言えば、実践者です。「この言葉で、本当に効果があるのでしょうか？」と聞かれたら、その根拠を詳しく説明するよりも、「まず、使ってみましょう！」とおすすめてしまいます。理屈を探るよりも、一人でも多くの目の前の子どもと向き合って話を聴いてみたい、言葉をかけてみたい、その体験を通して、効果的なものはどんどん発信していきたい、そのために時間を使いたいと思うのです。

ここで紹介した事例を通して、ご自身の近くにいる子どもたちに思いを馳せていただいて、「ちょっと試してみようかな」と実践につなげていただけたらうれしく思います。

ただ、本書で紹介した言葉をそのまま使っても、同じ結果は得られないかもしれません。人は深い存在なので、マニュアルどおりの反応が得られるとは限らないのです。

本書で感じ取っていただきたいことは、単なる言葉のテクニックではなく、その言葉の根底にある言葉かける人の「あり方」です。本書の【言葉かけ練習ポイント】は、あり方を深め豊かにすることも目指したポイントとなっています。

あり方は確実にその人の言葉に現れます。「夢は叶う」と実感している人は、「夢は叶う」という前提の言葉を発します。子どもの可能性を信じている人は、子どもへの信頼が自然と言葉ににじみ出ます。

あり方をキャッチする子どもたちの感度は恐ろしく高いです。こちらのあり方が常に試されます。「この言葉を言えば、自分の思いどおりに子どもが動く」などと思った瞬間に、もう心のシャッターを降ろされます。決して、テクニックに頼ることなく、自分のあり方を常に問いただすこと。子どもたちからは、いつもその大切さを痛いほど教えてもらっています。

\*

本書は、実に多くの方のお力添えによって出来上がりました。これまで出会ってきた多くの子どもたち、子どもとかかわる皆様からご提供いただいた生きた事例なくしては形になりませんでした。事例の掲載を快くご許可いただいた皆様に心から感謝いたします。

これらの事例には、ここ10年ほど連載コラムを書かせていただいている「ベネッセ教育情報サイト」(<https://www.benesse.jp>)で、すでにご紹介したものも含まれています。今回の出版にあたり、多少、加筆修正し転載させていただきました。長年にわたって貴重な機会を頂戴していることに深く感謝申し上げます。

また、私が日々大切にしている「言葉」について、あらためてまとめる機会をつくってくださった、ほんの森出版の小林敏史さんに厚く御礼申し上げます。

ここに集められた言葉を通して、一人でも多くの子どもが、自分の可能性を信じて力強く夢を叶えてくれたら、そして、子どもとかかわる皆様が、子どもの成長を心から喜び、充実感を得られたら、こんなに幸せなことはありません。

2018年8月吉日

石川 尚子